

CQこちらはヤング・チャーミング・レディ —アマチュア無線クラブ—

大学 21 回 安東雅範

アマチュア無線(ハム)といってもピンとくる方は少ないのではないかと思われるが、昭和の時代には「趣味の王様」とも称され、戦前の私設無線実験局に始まり、戦後は、一般に開放された周波数を割り当てられて、小学生から高齢者まで多くの人々が国内や世界各国との交信や機器の製作・実験などを楽しむ世界が広がっていった。

昭和 37 年に経済学部アマチュア無線部発足

こうした中、古いラジオや電気店などで部品を集めて自作の受信機や送信機の製作を楽しむ多くのラジオ少年たちが生まれ、後に我がアマチュア無線クラブ(以下「無線部」という。)を構成する人々が育っていく。

経済学部アマチュア無線クラブの発足は、昭和 37 年 10 月頃に大町尚夫、川上隆(大 12)、片岡英正、廣瀬俊治(大 13)、井上直樹(大 14)の各氏らにより無線同好会の設立が話題となったことに始まるといわれている(クラブの定款は「昭和 38 年 5 月 15 日実施」となっている。)

また、同時期に学芸学部の同好の士も経済学部と併せて無線局の申請をすることとなり、経済の初代無線同好会の会長となった大町氏が両学部の局免許申請を同時に行い、電波管理局に対して経済の方に早い呼出符号を希望しそれが実現するといった良き時代でもあった(経済はJA6YCL、学芸はJA6YCM)。

設立時の無線部は文化サークルとしてのクラブは無理であったが、同好会として登録が認められ、部室は、上野丘の経済学部の校門を入り、右手 12 号教室(階段教室)へ行く途中、木立の中にある立看やビラなどで雑然とした木造の文科系サークル棟の中、中国研究会と同居する一室にあった。

床は板張り、ベニア板の間仕切りで天井はなく屋根裏の梁が丸出し、各部屋の話し声は筒抜けという代物であった。

昭和 41 年から第 II 期無線部

創立世代の中心となった皆さんが全員卒業した後、入れ替わるように昭和 41 年に入学した人々が第 2 期の無線部を築いていく。

第 2 期は池辺博規、後藤公孝、安見俊明の 3 氏(大 18)が中心となって活動の再興が始まった。

再発足当初は、自治会の助成金を得るため同級生・知人に声をかけ部員数を確保してクラブに昇格(昭 42)をしたとのことで、私が入部した昭和 43 年頃は、他部とのかけ持ち部員、お茶をのみ雑談をして帰るだけの先輩がたくさんいたのを覚えている。

その当時の無線部は貧乏世帯。高額なメーカー製の完成品には手が出るはずもなく、アルバイトに励みながら部品を集めて機器を自作する、あるいはキットなどを購入して組み立てた部員個人の持ち寄りの送信機・受信機などで部室内は雑然・混沌とした雰囲気であった。

アンテナは、校舎や高木の枝を利用した自作の長さ 20m のダイポールをはじめとし、周波数に応じたいくつかの空中線を張り巡らせ、こうした手作りの機器から発する電波が「YCL Young・Charming・Lady」の愛称で全国の空を駆け巡っていった。

この愛称は、おさくらしい男世帯のクラブで顔の見えない無線通信ではせめて華やかに

と、「YCL」のYを young、Cを charming、Lを lady としてアピールしたものであった(後に多くの女子部員が入部することになるとは知る由もなかった。)

昭和 44 年に教育学部の無線部と統合

昭和 44 年4月には、経済学部の旦野原への移転に伴い教育学部とのキャンパスの統合が完了することとなる。

教育学部からは初の女子部員が入部し、徹夜のコンテスト(交信地域や交信局数を競う競技)にYL(Young Lady)さんが泊まり込むという楽しい状況も生まれていく。

統合当時の教育学部無線部は部員もなく活動休止状態であったが、新たに入部した教育学部の部員たちに意見を聞いたうえで、大分大学アマチュア無線クラブとして経済学部無線部と統合し、現在経済学部が使用しているコールサインを統合した無線部の呼出符号として使用し、教育学部の呼出符号は当分用いず、統合後の無線部の権利として保留することとした。

移転後初のコンテストでは、教育学部棟の最上階の一室を借りてアンテナや機器の設置を行い、オン・エアしたがこれが非常によく飛んでくれた。

また、旦野原移転前後から機器の整備とアンテナ設置について大学当局に対して請願書を出していたが、昭和 45 年度になって教育学部の研究実験用施設として、アンテナタワー(パンザマスト)が実現することとなった。

新サークル棟の端に作られたこのタワーには、部の予算のほぼ全額をつぎ込んで買ったローテータで回す部員手作りの2バンドのキュービカルクワッドが上がり、永らく無線部のシンボルとして旦野原の丘にそびえ立っていた。

昭和 47 年、工学部が加わり全盛期に

昭和 47 年には工学部が新設され、多趣多彩のメンバーが増えていき無線部全盛期が到来していく。

この頃の無線部は、日々の交信、上級資格取得のための電信の練習、コンテストへの参加、部誌「ブレイク・イン」の発刊、あるいは合宿や登山など多くの活動を重ねていく。

また、創立 20 周年式典を機に、昭和 58 年1月にはOB会が発足し、無線部の活動を側面から支えていくこととなる。

その後、平成 5 年1月に創立 30 周年記念式典が行われ、多くのOBや現役部員が参加して、記念講演が行われ、また、OB会名簿や無線部の歴史を年代ごと(昭 37～平 3)に取り纏めた 30 周年記念誌が発行された。

本稿の内容は、この記念誌によるところが多く、昭和 43 年度から昭和 47 年度の間を除いては伝聞等をもとに記述していることとお断りし、不正確な部分や誤りのご指摘、追加情報等があればお知らせくだされば幸いです。

また、数十年以前の記録や記憶を辿りながら、無線を通じて青春を共にした仲間たちと昔日の思い出を肴に酒でも酌み交わしたいと夢見ている日々です。